



『ビジョン2030』  
1st STEP  
(2022年3月期～2024年3月期)

中期経営計画

2022年5月20日改訂

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証プライム 証券コード:6928



社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、  
健全なものづくりを通じて、  
豊かな社会の実現に貢献する。

## ビジョン2030

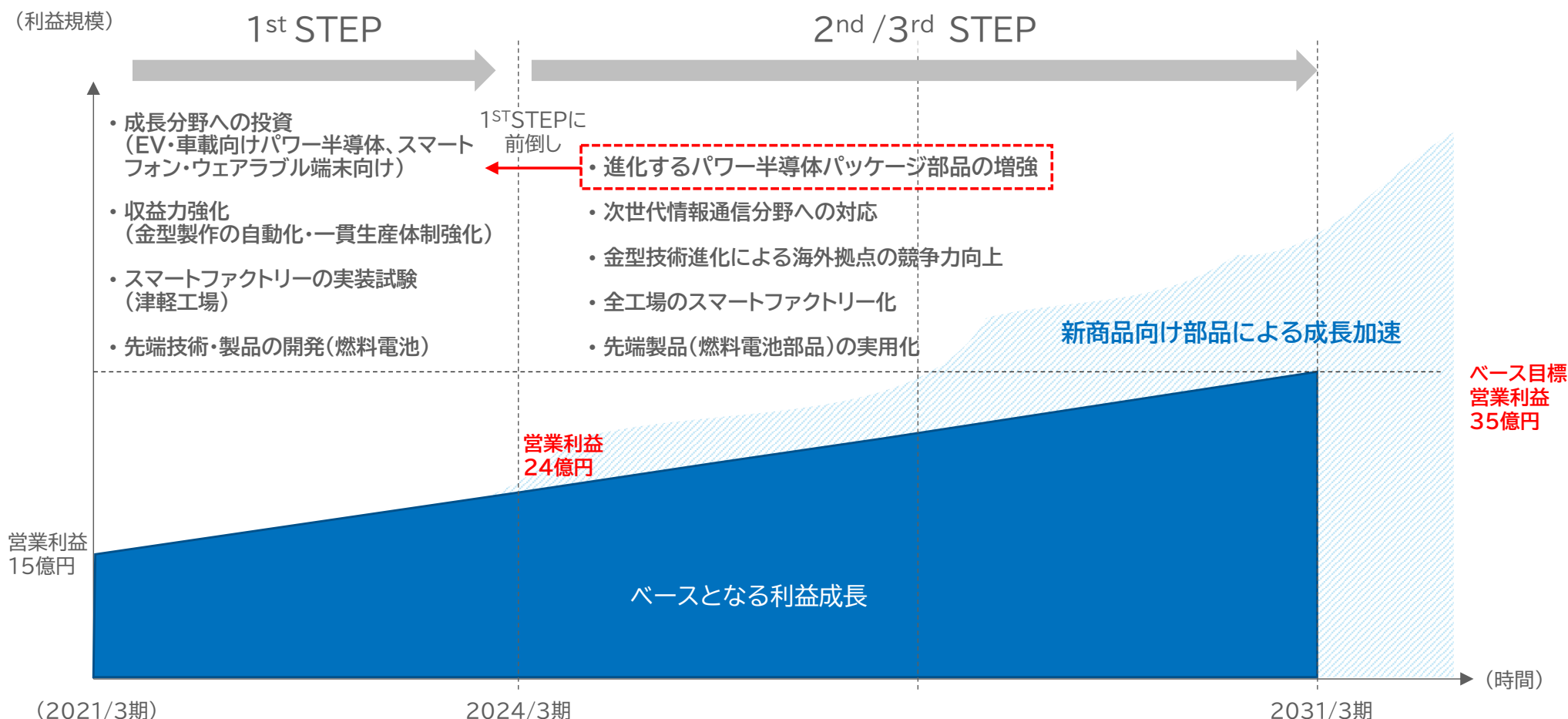
「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で  
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

## ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

- ビジョン2030では、既存製品の需要拡大を見据えつつ、付加価値率の向上を軸とした各種施策で主力製品のマーケットの成長を上回る利益成長を図る
- 2nd STEPで計画していたパワー半導体パッケージ部品の増強を1st STEPに前倒して実施予定
- 津軽工場の増築工事は予定通り完了し、1月より稼働開始



# 1st STEP(2022年3月期～2024年3月期)

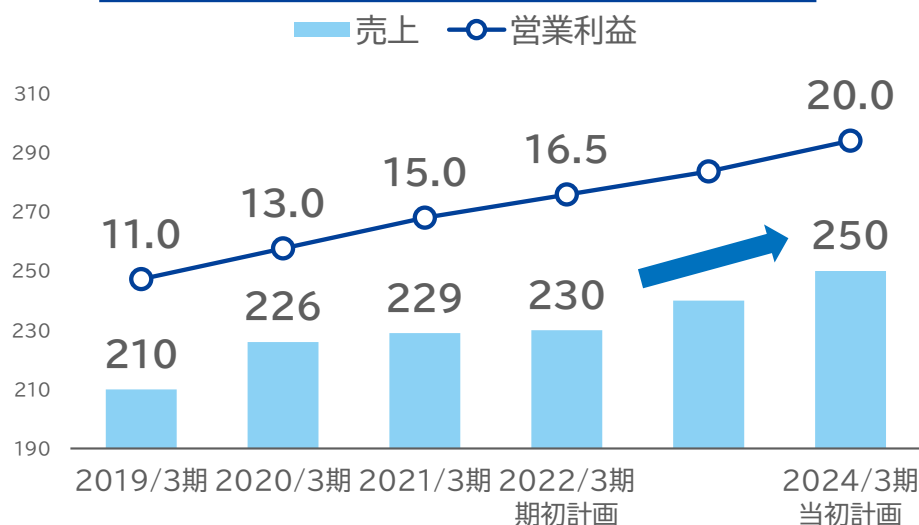
- 2022年3月期の営業利益は20億円となり中期経営計画の数値目標を達成、24年3月期は24億円に上方修正
- パワー半導体向けリードフレームの生産能力を1st STEPに前倒して増強

コネクタ部品は、ウェアラブル端末向け中心に引き続き旺盛な需要が続く、津軽増築分の利益貢献も加速

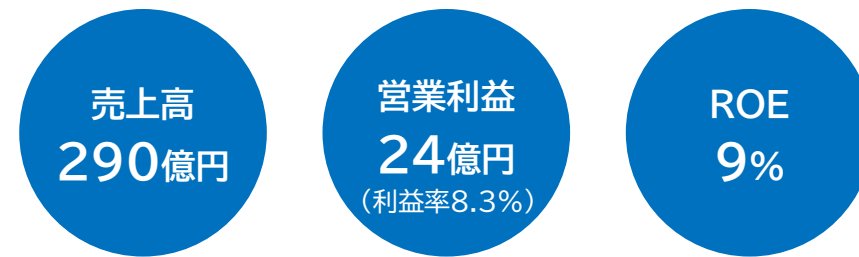
## 1st STEP 目標数値(当初計画)



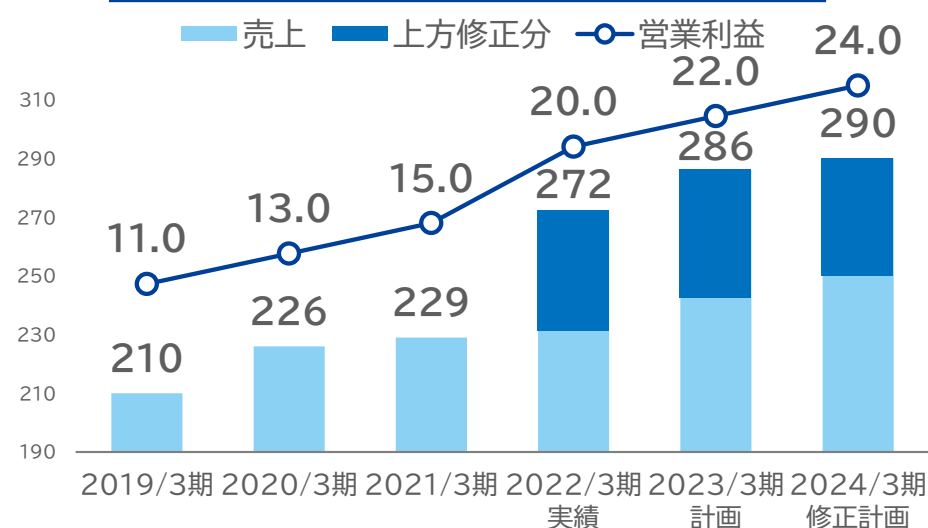
### 売上高・営業利益



## 1st STEP 目標数値(修正計画)

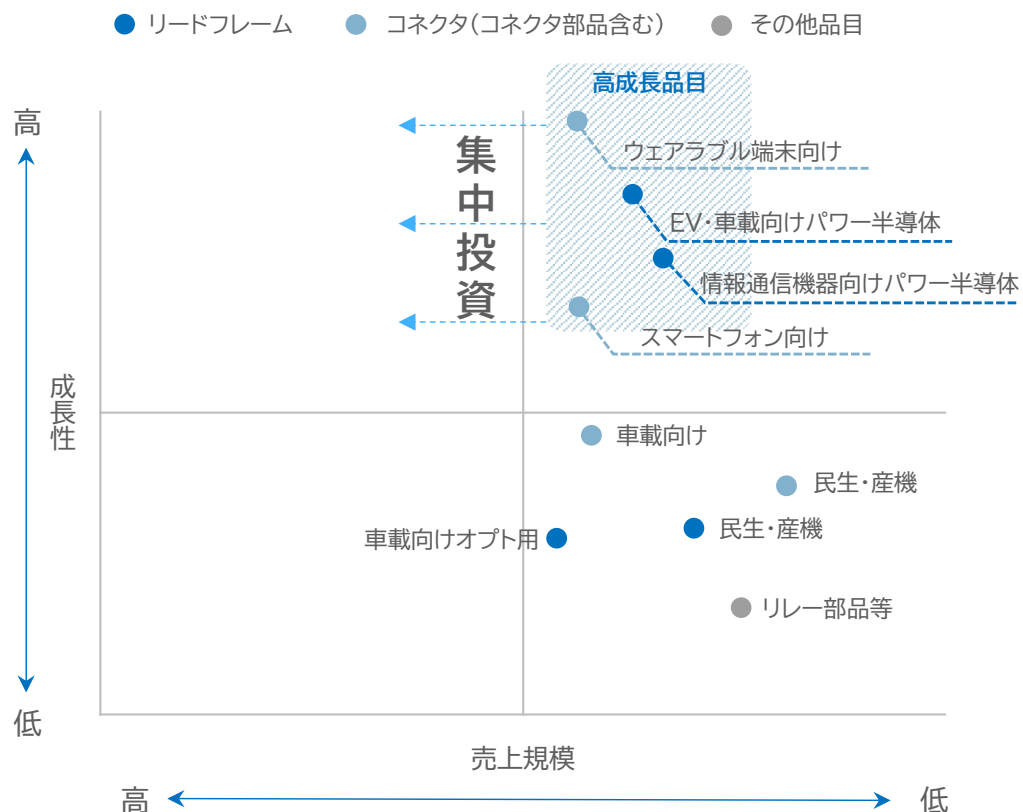


### 売上高・営業利益

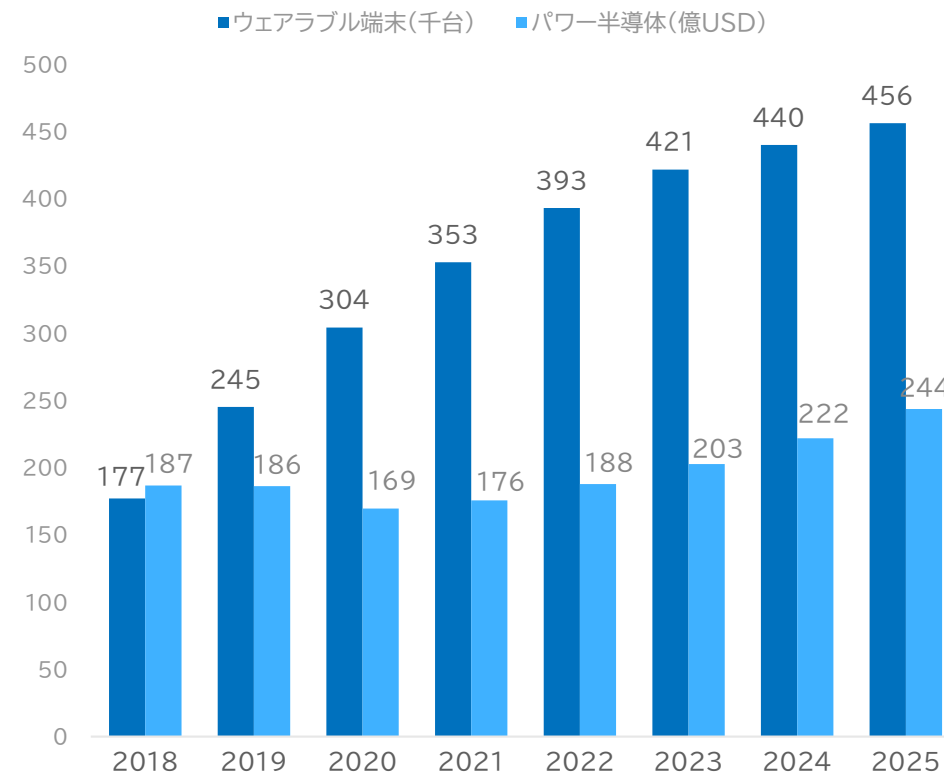


- ウェアラブル端末向けなどの狭ピッチコネクタやパワー半導体向けリードフレームなど、当社の超精密・大量生産技術が活かせる分野に集中投資

## 取扱い品目の成長性



## 成長分野の世界市場予測

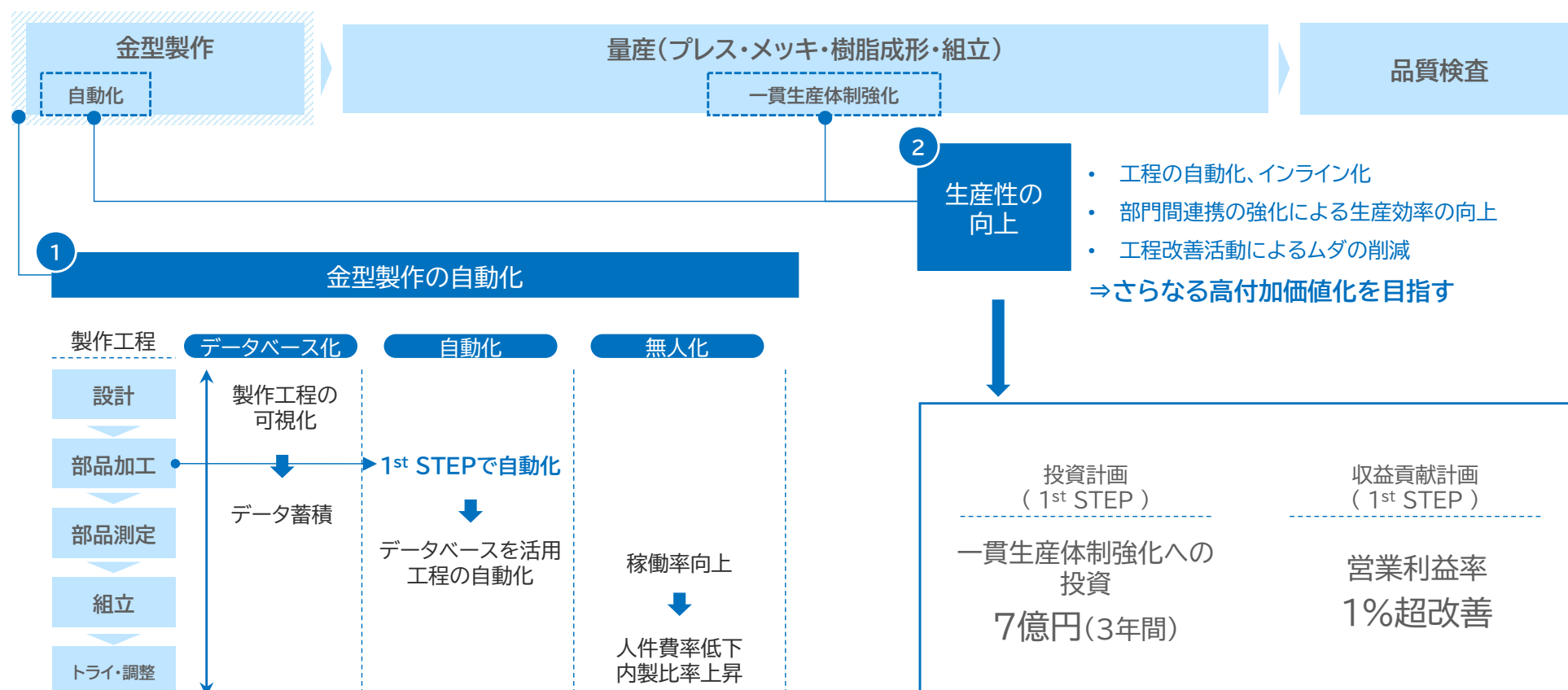


ウェアラブル端末はスマートスピーカー・スマートウォッチ・ヘルスケアバンドの合算

出所: ウェアラブル端末は富士キメラ総研「2020年 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」  
 パワー半導体は矢野経済研究所「2020 進展するパワー半導体の最新動向と将来展望」

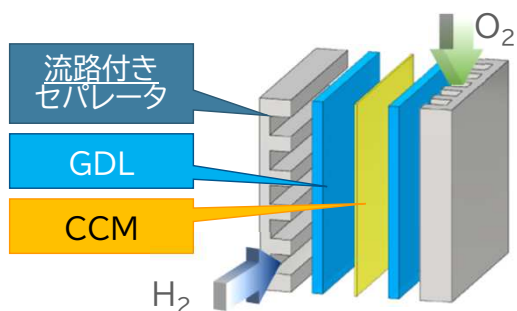
- 主力製品の核となる金型製作は、熟練の技術者育成に長期間かかることに加え、加工工数も多い。自動化を推進し低コスト化を実現するだけでなく、将来的に加工データを活用した技術伝承も見据える
- 更なる一貫生産体制の強化により、短中期的な収益性改善を計画するとともに、将来的な価格競争力の維持や最新の顧客需要に応える提案活動が可能となり、主力製品の付加価値向上を図っていく

## リードフレーム・コネクタの製造工程と競争力向上施策

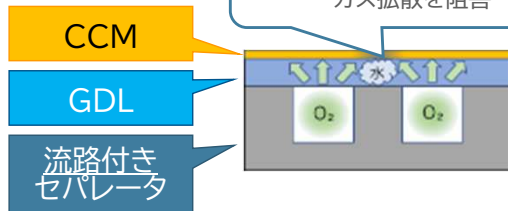


- 固体高分子型燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC+)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスソケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来は電気自動車、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る

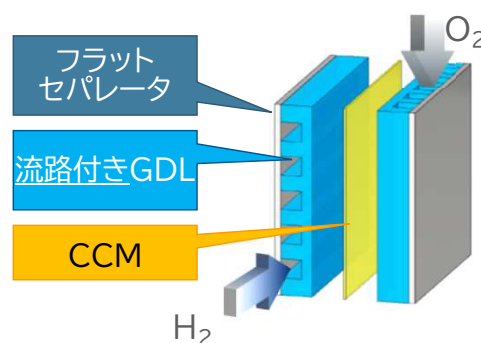
## 従来構造



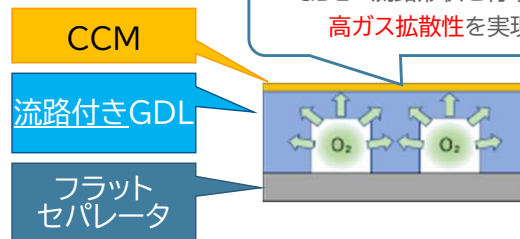
リブ下の水の滞留により、  
ガス拡散を阻害



## 開発構造



GDLへ流路形状を付与し、  
高ガス拡散性を実現



## 2021年5月

日本で初めて制作された国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車に当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載

## 2021年7月

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)共通課題解決型産学官連携研究開発事業に採択

## 2022年3月

山梨大学及び大強度陽子加速器施設・J-PARCと連名で寄稿した論文が『Journal of Power Sources』(Elsevier社)にオープンアクセス版として掲載

流路付きガス拡散層(GDLFC+)が結露抑制や拡散過電圧の上昇を抑制し、燃料電池セルの特性向上に貢献していることを実証

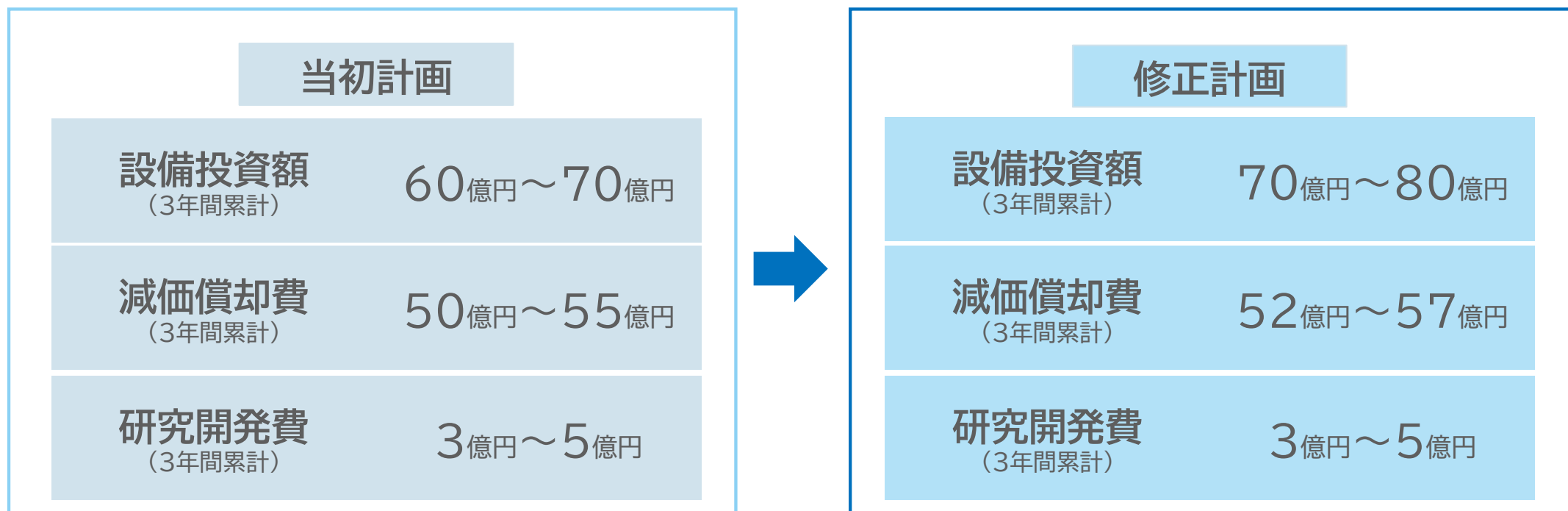
- ・メインターゲットはFCV – 2030年FCV市場規模4兆7,520億円(富士経済予測)
- ・2021年3月時において特許6件(国際:4件、国内:2件)出願中
- ・量産に向け2015年比約1/10コストへの削減を目指す



- ・改良型燃料電池の製造・研究開発・実用化による、安価かつ環境に配慮したエネルギーの普及
- ・山梨県、山梨大学等と共に、産官学連携による燃料電池の研究開発の推進
- ・政府(文科省)も本燃料電池の研究開発を支援



- 中期経営計画期間中の設備投資を60億円～70億円から、リードフレームの増産等により70億円～80億円に増額、これに伴い3年間の減価償却費も従来比2億円増加
- 研究開発は計画通り進捗、当初計画から変更なし

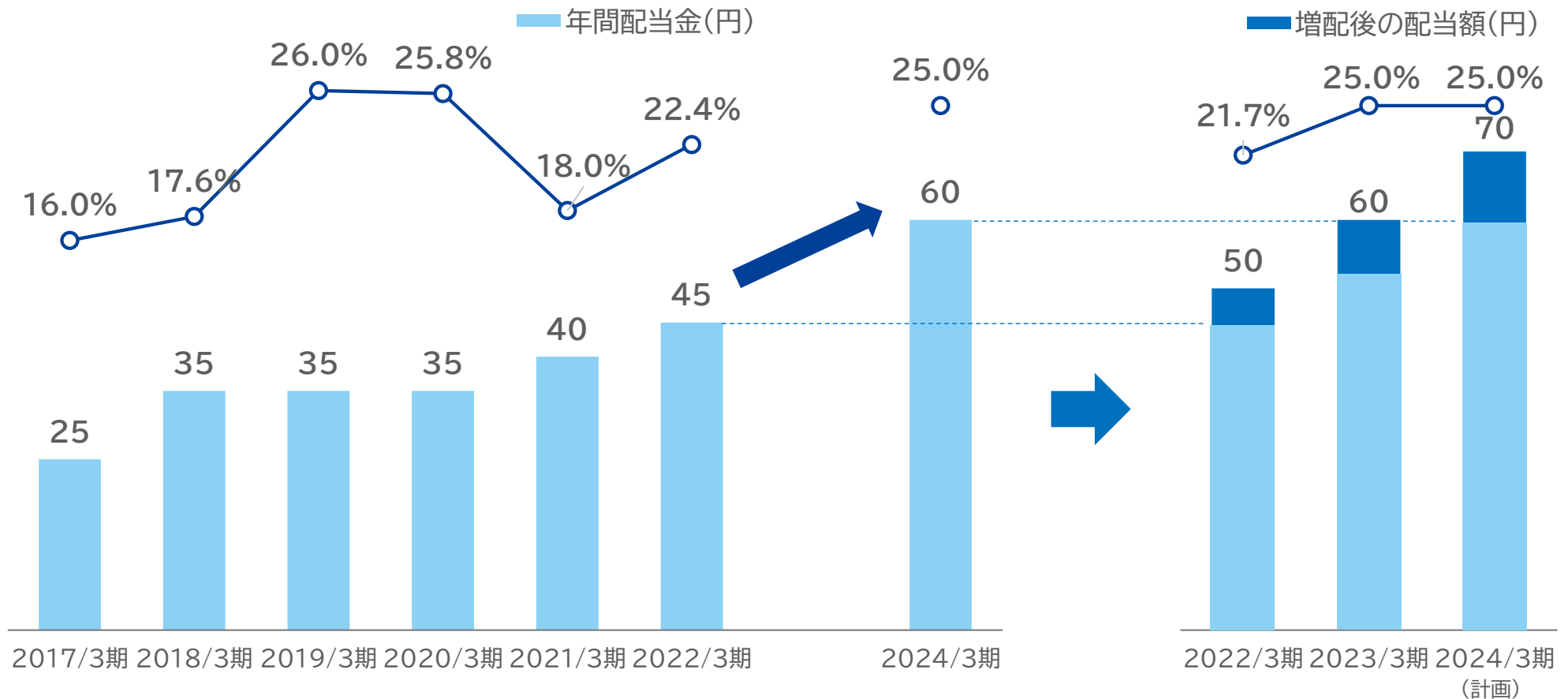












## 主要設備投資

- 津軽工場増築 31億円 (スマートフォン・ウェアラブル端末向けコネクタの増産)
- パワー半導体用リードフレームの増産 10億円
- スマートファクトリー化に向けたデジタル投資 5億円
- 再エネ・省エネ投資 5億円

- ビジョン2030 1st STEPでは、津軽工場への投資等もあり、配当性向25%を目途に安定配当を継続
- 業績上方修正により、2022年3月期の配当を50円に増額、  
2023年3月期は中計最終年度(24年3月期)の**目標値60円を前倒して計画**、**24年3月期は70円に**

配当金・配当性向の推移



重点分野	関連するSDGs	現在の取り組み	1st STEPでの対応策
脱炭素社会の実現	   	<ul style="list-style-type: none"> <li>産官学連携による燃料電池部品開発</li> <li>太陽光パネルの設置</li> <li>照明の完全LED化推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料電池部品の事業化</li> <li>太陽光パネルの増設(津軽工場に設置予定)</li> <li>二酸化炭素排出量の測定と開示法の策定</li> </ul>
誰もが活躍できる社会の実現	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てのしやすい環境の整備(プラチナくるみん*)</li> <li>在宅勤務制度の実施</li> <li>健康優良企業「銀の認定」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度活用促進によるプラチナくるみんの継続</li> <li>女性比率の向上と女性管理職の育成</li> <li>障がい者・外国籍雇用体制の更なる拡充</li> <li>健康優良企業「銀の認定」更新</li> </ul>
みんなが幸せになれる社会の実現	   	<ul style="list-style-type: none"> <li>フードバンク活動</li> <li>学習支援活動への協賛</li> <li>地域活動、スポーツ団体への協賛</li> <li>ボランティア休暇制度実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用活動や経済活動を通じた地域との共生</li> <li>リサイクル活動強化</li> </ul>

\*プラチナくるみん：次世代育成支援対策促進法に基づき、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業を認定

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。